

学習者の熟達レベルと作文の質的变化

—学習者の書く過程に注目して—

村田裕美子（ミュンヘン大学）

Y. Murata@lmu.de

【要約】

本研究では作文を書く過程に注目して、学習者がどのように書いているか、またどのような問題を抱えているかを明らかにするため、レベルの異なる学習者に同じテーマで作文を書いてもらい、作文とその後のインタビューの回答を質的に分析した。調査の結果、学習者はレベルによって使うリソースに差があること、各レベルで異なる悩みを抱えていることがわかった。この結果をもとに、書く活動の指導について考察する。

1. 研究の目的

本研究の目的は学習者が作文を書く時の過程に注目し、以下の3点を明らかにすることである。

- (1) どのような辞書を、どのように使っているか
- (2) どのようなことに気をつけながら書いているか
- (3) 日本語の熟達度によって書き方にどのような違いがあるか

日本研究における日本語教育では、限られた時間の中で、まず日本語の読解能力、次に日本語から母語への翻訳能力の育成が優先され、日本語を話す能力や書く能力が後回しになってしまう傾向がある。しかし、書く作業には次のような役割がある。

- (4) 既習の語彙・文型などの使用機会を増やし、定着化させること
- (5) モニタリング能力や言語要素の正確さを向上させること
- (6) 思考内容を表現する技術を向上させること

このことから、作文の授業や指導の必要性は十分にあり、そのためにはまず学習者がどのように作文を書いているのかを明らかにするべきではないかと考え、本調査を行なった。

2. 研究の位置づけ

これまでの作文の研究では、効果的な活動案、フィードバックの効果、誤用のタイプなどに関する研究が盛んに行われてきた。しかし、作文を書く過程に注目して学習者が実際にどのように書き、何を難しいと思っているかを明らかにしたものは少ない。鈴木（2012, 13, 16）は学習者の辞書の使用に関する研究を行なっているが、作文を書くときのリソースがレベル別にどのように変化しているかを調べた論文は管見の限りまだない。「書く」能力を高めるには、学習者が何を抛り所にして書いているかを明らかにし、レベルに適した誤用回避の方法や辞書の調べ方を教える必要がある。

3. 調査概要

ミュンヘン大学のレベルの異なる学習者に同じテーマで作文を書いてきてもらい、その後、インタビューを実施し、どのように作文を書いたのかを話してもらった。概要は以下の通りである。

(7) 調査期間：2017年5月

(8) 調査対象者：ミュンヘン大学日本学学生（2学期、4学期、6学期以上）各3名、合計9名
（以下、便宜上、2学期を初級、4学期を中級、6学期以上を上級とする）

(9) 調査方法：

（手順1）作文の課題を与え、うちで書いてきてもらう。

（手順2）後日、一時間程度のインタビューを行う。

a. 辞書を使ったか。どんな辞書を使ったか。

b. どんな語彙を調べたか。

c. 自分が書いた文章で直したいところ、書ききれなかったところはどこか。

d. 全体的に何が難しかったか。

(10) 作文の課題：「住みやすい国の条件とその理由」

e. 課題提示はドイツ語で行なう。

f. 分量は400字から1000字までとする。

g. 辞書などの使用を認める。

h. 提出はオンラインとする。

4. 調査の結果

4. 1 辞書の使用

学習者がどのような辞書を用いて作文を書いているのか、表1にまとめる。

表1 レベル別の使用辞書リスト

初級	オンライン辞書：wadoku(独日⇄日独) オンライン辞書：google 翻訳(英日⇄日英) オンライン辞書：jisho.org(英日⇄日英)
中級	オンライン辞書：wadoku(独日⇄日独) オンライン辞書：tangorin(英日⇄日英) 携帯アプリ denshi-jisho(英日⇄日英) 携帯アプリ imiwa?(独日⇄日独) Google 検索
上級	オンライン辞書：wadoku(独日⇄日独) 電子辞書：CASIO(明鏡国語辞典、デジタル大辞泉、 ジーニアス英和大辞典、類語新辞典) (独日⇄日独) 日本語コロケーション辞典 Google 検索

学習者の辞書の使い方についてみていくと、レベルが上がるにつれて、使うリソースに変化があることがわかった。また、全体的にオンライン辞書 wadoku.de が各レベルで広く使われていることがわかる。wadoku.de は、ドイツ語の辞書は英語に比べても種類が少ない中、語彙が豊富に収録されていること、またフリーで使用できる手軽さから学生の間でよく利用されている。

レベル別に詳しくみていくと、初級の学習者は、オンラインの辞書のみ使用していた。1人一つの辞書を用い、ドイツ語か英語の語彙を入力し、対応する日本語を選んでいった。

中級の学習者は、1つの辞書を使う学生もいれば、複数の辞書を使う学生もいた。1つの辞書を使う学生も、初級とは使い方が異なり、まず独和で語彙を選び、次に和独でも対応しているか語彙が正しいかを二重にチェックして、適当な語彙を探すという方法を用いていた。中級から上級にかけてはGoogle検索を用いてよく使われているような語彙を選ぶという方法を用いる学生もいた。

上級の学習者は、辞書も使い方も多様であった。電子辞書を使っている学生、Google検索やオンラインの辞典を使っている学生もいた。特にどの学生も例文があるかないかでよく使う辞書を選び、普段から使用しているようである。また語彙を選ぶ際も例文を参考にする傾向がみられた。

しかし、どのレベルでも学習者からは「適切な語彙を見つけるのが難しい」という不満の声が上がった。

4. 2 学習者が調べた語彙

ここでは、学習者がどんな語彙を辞書で調べて作文に用いていたかをまとめる。

4. 2. 1 初級から中級にかけて：「適切な語彙が選べない」

初級から中級にかけて、学習者は「適切な語彙が選べない」という問題が多かった。以下、学習者が書いた作文と調べた語彙を紹介する。

(11)住みやすい国に**明媚な山川草木**があります。(初級)

学習者は「Schön」という語を wadoku.de で検索した。

図1 Wadoku.de で schön を検索した結果



<https://www.wadoku.de/search/schön> (2017.11.1 参照)

左の図1はオンラインの辞書(wadoku.de)で学生と同じように「schön」を調べた時の検索結果である。

その結果、「晴朗な」「美しい(愛しい)」の次に「明媚な」という語が現れた。右に表示されるドイツ語と照らし合わせ、学生はこの中から「明媚な」を選んだ。

同じように、「山川草木」もドイツ語の「Natur」から検索した。

このような問題は別の作文でも多く見られた。(12)から(14)もその例である。

(12)私見によれば**諸般**は大切です。(初級)

(13)自分の国で良く生きれるように、平和が一番大切前提条件であり、戦争をばっ発する危険で**民草**が不定の中に生きなければなりません。(中級)

(14) 住みやすい国の条件が2つあります。一つは闊達です。(中級)

「諸般」は「verschieden」、「民草」は「Volk」、「闊達」は「Toleranz」を wadoku.de で調べ選んだ言葉である。「闊達」を選んだ学生は辞書の検索結果には「寛大さ」「寛容さ」という語もある中で、「書き言葉 (schriftspr.)」という語彙情報に注目し、「闊達」を選んでいった(図2 黒枠)。

図2 Wadoku.de で Toleranz を検索した結果



<https://www.wadoku.de/search/Toleranz> (2017.11.1 参照)

フィードバックとして、作文全体のバランスと学習者の意図を汲み、「諸般」を「様々」に、「民草」を「国民」に、そして「闊達」を「寛容」に直した。

4. 2. 2 中級から上級にかけて：「簡単な語彙を使いたくない」

中級から上級にかけて、学習者は「簡単な語彙を使いたくない」という意見が多かった。そのため、辞書で調べ、適当だと思える語彙を選んでみるが、その結果、不自然な文になってしまうものも多い。学習者のレベルであれば、自分が知っている言葉を用いて書くことができるのであるが、一般的に広く使われている語彙は、易しすぎて内容に合わないと感じ、あまり使いたくないという気持ちがあることがわかった。以下、学習者が書いた作文と調べた語彙を紹介する。

(15) 学費が国によって高さが違い、家族によって支弁することも難しいし、裕福のある家族のため支弁することが簡単だし、教育機会平等は掣肘を受けることも起こる。(上級)

学習者は「支弁する」を「bezahlen (支払う)」の意味で用いている。学習者は「支払う」という語彙は知っていたが、「支払う」は買い物などの生活の中でも使える語彙であり、もう少し抽象的な、専門的な言葉で表したいという気持ちから選んでいた。「掣肘を受ける」は「eingeschränkt sein」を調べ、そのまま使用した。「掣肘を受ける」という表現は一般に使われる場面が限られるが、その判断は上級学習者でも難しい。

(16) その故**精鋭**や労働階級や貧乏のある層に分かれる住民層のある、**立身出世**なし住みやすい国ではない。(上級)

「エリート」や「キャリアアップ」という語彙は、学習者も知っていたし、辞書でも出てきたが、上級学習者はカタカナ語を避け、あえて漢語を選ぶ傾向が強かった。

4. 3 書ききれなかったところ

ここでは、学習者が日本語のレベルが足りないために、言いたいことを日本語で十分に表せなかったところや、自分の書いた表現が正しいかどうか自信を持っていないところなどをまとめる。

4. 3. 1 初級から中級にかけて

初級から中級にかけての学習者は、言いたいことが日本語で表せないために、簡単な語彙や学んだばかりの文型で省略してしまう傾向にあった。

学習者からは、「「一なければなりません」など習った文型を繰り返し使ってしまう」、「単純で短い表現になってしまう」、「文を組み立てるのが難しい」と言ったコメントがあげられた。

次の作文は「なければなりません」を多用した初級学生のものである。

(17) 国によく住む前提条件は何ですか。どうして。4ポイントがあります。

1. まず、その国にいろいろな意見と人格形成の景気**なければなりません**。例は教育や文化や政治や科学や様々なスポーツや自由時間活動や番組などです。それは満足と刺激につながりますから、とても大切です。
2. 政府の恐れで政府に対する反感は危なくて有害ですから、政府は頼もしくて、いいで**なければなりません**。政府は市民を援助し**なければなりません**。
3. 警察は有能で**なければなりません**。それによって、犯罪率は低いです。ですから、警察が有能なら、市民は安全に感じます。そして、この国はグローバルウォーかグローバル危機に掛かり合うべきではない。市民の安全は非常に重要です。また、経済は安定し**なければなりません**。
4. そして、社会的利益やいい健康保険やたくさん新規雇用や安い家賃などは大切です。より良い生活が満足につながります。

もちろん、この国はユートピアですが、私はそこにぜひ住みたいです。(初級)

学生は、もっと色々な表現を使いたかったそうだが、語彙が足りず、難しかったため、習ったばかりの「なければなりません」を繰り返し使い、これについて不満に思っていた。

次に、単純な表現になってしまった例を2つあげる。

(18) 国の教育水準は高いです。学校や大学や美術館や図書館などがたくさんあります。(中級)

学生が本来書きたかったことは、「国の予算を教育や文化機関に十分に投資する。良い学校やエリート大学は高い教育水準を可能にする。」ということである。しかし、複雑すぎて、日本語では思うように書ききれず、(18)のような文になってしまった。

(19) もし、豊富な人は貧乏な人にお金をあげたら、機会の平等があります。(中級)

学生が書きたかったことは、「貧困者が国から金銭的な支援を得られるように所得の高い人が税金を多く払う。そうすることで、機会の平等が得られる。」ということである。しかし、複雑すぎて、日本語では満足のいく文を書けず、(19)の文になってしまった。

4. 3. 2 中級から上級にかけて

中級から上級にかけての学生は子供っぽくならないように、テーマや文脈に適した語彙や文型を使おうとするが、選んだ語彙や表現が正しいかわからないという問題や不安を抱えていた。

学習者からは「語彙、特に漢語を増やしたい」「なめらかに、流れるような文章を書きたい」「文の最後をどんな表現で終わらせればいいかわからない」といったコメントがあげられた。

複数の上級学習者が述べていた「子供っぽいことば」というのは、一つの語彙でいくつもの意味に取れるものであり、例えば、「いい」という語彙は、文脈によって「おいしい」「綺麗」「上手」「好き」など様々な意味になりうる。こういう言葉は「子供っぽい」ため、あまり使いたくないという声があった。

次の(20)は、「別の表現を使いたかった」、あるいは「選んだ語彙に確信がない」という例である。(20) (生理的欲求と安全の欲求という自己実現理論の) 基礎がなければ、人間は上の階段に上がれず、**満身に溢れた生活**を送れないと説明されている。

学習者は、「人間は上の階段に上がれず」を漢語でコンパクトに表現したかったができなかったことを不満に思っていた。また、「満身に溢れた生活」では「幸せな生活」よりも抽象的な語で、さらに「満ちた」という表現を使いたかったが、「満身に溢れた生活」が自然かどうか確信が持ていなかった。

また、上級学習者に共通していたのが、文末の動詞の表現に対する不満である。学習者は、いつも同じ表現を繰り返し使っていてバリエーションがないことに不満を持っていた。例えば、ある上級学習者は、「〜と感じている/〜と思っている/〜と考えている」を繰り返し、別の学習者は「〜であろう/〜ではないか/〜と思われる」を繰り返し使用していた。

5. まとめと考察

調査の結果、学習者の作文を書く過程から以下のことが明らかとなった。

(21)辞書の使用では、レベルによって使うリソースに差が見られた。

(22)初級から中級の学習者は、言いたいことが日本語で表せないために、簡単な語彙や文型で省略してしまう。

(23)中級から上級の学習者は、子供っぽくならないように、テーマや文脈に適した語彙や文型を使おうとするが、選んだ語彙や表現が正しいかわからない。

さらに学習者の作文からは次のことがわかった。

(24)学習者が既習の文型や語彙をどのように理解し、使っているか

(25)学習者が未習の文型や語彙と向き合い、どのようなストラテジーを用いて自分の言いたいことを表現しているか

以上をふまえて、「作文」の課題から教師にできることを学生の声をもとに答えていきたい。

(声1) 辞書から適切な語彙を選ぶのが難しい

(声2) 簡単な語彙や文型(の繰り返し)になってしまう

(声3) 語彙や表現のバリエーションを増やしたい

(声1) 辞書から適切な語彙を選ぶのが難しい

辞書の種類や使い方をレベルごとに指導することで問題を回避できるのではないだろうか。例えば、初級から中級の学習者には、語彙の選択に困らないように「ポケット辞書のような語彙が限られたものを使うこと」「できるだけ知っている語彙、聞いたことのある表現を使うこと」を勧める。また、中級から上級の学習者には、不自然な表現にならないように「複数の辞書を使ったり、インターネット検索、パラレルコーパスなどを活用したりすること」を勧める。

(声2) 簡単な語彙や文型（の繰り返し）になってしまう

作文を書く活動の意義を丁寧に指導することで不満が回避できるのではないだろうか。ドイツの学生にとって書く活動の意義は、「言語運用の機会を増やすこと」「習った語彙や文型を定着させること」「時間をかけて文の構造を理解したり、分析したりすること」「自分の今のレベルや課題を見つけること」である。学習者にそのための活動であることが伝われば、結果を肯定的に捉え、学習者自らが新たな目標を設定できるのではないかと考えている。

(声3) 語彙や表現のバリエーションを増やしたい

インターネットの活用を勧めたい。今回の調査でも学習者は様々な方法を用いて語彙を選んでいることがわかった。インターネットでは様々な辞書や作文支援システムが公開されている。これらの情報を学習者に提供することで、「学習者の選んだ語彙が適切かどうかわからない」「表現を増やしたい」という声に応えたい。

このような指導により、学習者自身が日本語で「できること」と「できないこと」に気づき、書く活動に対しての動機づけにつながる。

6. 日本語教育への示唆と今後の課題

作文の研究では、これまで学習者が書いたものから誤用を集め、それをどう添削するか、どう評価するかといった研究に加え、どのような活動が効果的であるかといった実践を通じた報告などが活発に行われてきた。しかし、書く過程に注目し、学習者がどのような困難点に向き合い、乗り越えようとしているのかをレベル別に調査したものはまだ少ない。習得状況に合わせた目標を設定し、レベルにあった指導をするためには、書く過程で学習者がどのように考え、妥協したり、克服したりしているかを教師は知っておく必要がある。今回の調査からは、その一部が明らかになった。

今後の課題として、前章で提案した指導が学習者に効果的であるかを実践し検証することが必要である。また、調査には各レベル3名、合計9名に協力してもらっているが、今後は数を増やして、学習者の声に応えていきたい。

参考文献

石毛順子(2007)「第二言語の作文における初級から中級にかけての発達 -質の観点から-」 国際交流基金 日本語教育紀要 第3号.

- 加藤紀子(2002)「作文データから考える初級の文法指導 接続詞・接続表現を中心に」『日本語教育連絡会議論文集 Vol14』 pp.31-35, 日本語教育連絡会議, <http://www.nier.go.jp/saka/pdf/N14009031.pdf> (2017年5月20日参照)
- 小宮千鶴子(1992)「日本語教育における初級段階の作文指導」『中央学院大学教養論叢 4』 pp.49-69, 中央学院大学.
- 鈴木智美(2012)「留学生の辞書使用についての実態調査-東京外国語大学で学ぶ留学生へのアンケート調査の結果と分析-」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』 第38号 pp.1-16, 東京外国語大学留学生日本語教育センター.
- 鈴木智美(2013)「日本語学習者のための辞書使用のスキル養成のポイント-留学生の辞書使用に関するアンケート調査自由記述欄の SCAT による質的分析を通して-」『東京外国語大学論集』 第86号 pp.131-158, 東京外国語大学.
- 鈴木智美(2016)「日本語学習者は辞書からどのように言葉を探すのか -中級・中上級日本語学習者7名の辞書使用についての調査事例報告から-」『日本語・日本学研究』 第6号 pp.1-23, 東京外国語大学国際日本研究センター.
- 藤田裕子(2007)「インターネットを利用した作文授業の効果-日本語で書くことに対する留学生の態度構造の変容-」『桜美林言語教育論叢(3)』 pp.17-31, 桜美林大学言語教育研究所.

インターネット情報

jjisho.org <<http://jjisho.org/>> (2017年11月1日)

Tangorin <<http://tangorin.com/>> (2017年11月1日)

Wadoku <<https://www.wadoku.de/>> (2017年11月1日)

Weblio 類語辞典 <<http://thesaurus.weblio.jp>> (2017年11月1日)

日本語コロケーション辞典 <<http://collocation.hyogen.info/>> (2017年11月1日)

日本語用例検索 <<http://www.let.osaka-u.ac.jp/~tanomura/kwic/aozora/>> (2017年11月1日)

連想類語辞典 <<http://renso-ruigo.com>> (2017年11月1日)